



平成 27 年 10 月 30 日

各 位

上場会社名 京極運輸商事株式会社
代表者名 代表取締役社長 玉川 寿
(コード番号 9073)
問合せ先責任者 常務取締役 湊 英夫
(電話番号 03-5825-7143)

特別損失の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 28 年 3 月期 第 2 四半期において、危険物倉庫建設に伴う特別損失を計上する事となりましたのでお知らせすると共に、平成 27 年 5 月 14 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたします。

1. 特別損失の概要

平成 27 年 9 月 24 日発表「固定資産の取得に関するお知らせ」の通り、危険物倉庫を建設する事に伴い、既存の普通倉庫を解体・撤去する事となりました。これに伴い、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、平成 28 年 3 月期第 2 四半期累計期間において 14 百万円の減損損失を計上すると共に、40 百万円の撤去費用を計上する事といたしました。

2. 業績予想の修正について

平成 28 年 3 月期第 2 四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,260	100	110	80	25.63
今回修正予想(B)	4,235	166	185	81	25.93
増減額(B-A)	△25	66	75	1	
増減率(%)	△0.6	66.0	68.2	1.3	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 3 月期第 2 四半期)	4,511	27	39	21	6.82

平成 28 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,550	120	150	100	32.03
今回修正予想(B)	8,390	180	230	110	35.24
増減額(B-A)	△160	60	80	10	
増減率(%)	△1.9	50.0	53.3	10.0	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 3 月期)	9,042	152	181	93	29.66

平成 28 年 3 月期第 2 四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 9 月 30 日)

(注) 前事業年度実績(平成 27 年 3 月期第 2 四半期)は、開示を省略しております。

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,820	80	90	60	19.19
今回修正予想(B)	2,838	115	130	49	15.61
増減額(B-A)	18	35	40	△11	
増減率(%)	0.6	43.8	44.4	△18.3	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 27 年 3 月期第 2 四半期)	—	—	—	—	—

平成 28 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,700	95	110	70	22.39
今回修正予想(B)	5,675	155	175	70	22.39
増減額(B-A)	△25	60	65	0	
増減率(%)	△0.4	63.2	59.1	0.0	
(ご参考)前期実績 (平成 27 年 3 月期)	5,855	118	140	66	21.26

3. 修正の理由

1. 連結

当第 2 四半期連結累計期間の売上高は、石油販売における販売数量及び販売単価の減少により減収となる見込みであります。しかしながら、貨物自動車運送事業において、燃料価格が低水準で推移した事、及びタンク洗滌・修理事業において、利益率の高い工事の完成等により損益は公表値を上回る見込みであります。なお、危険物倉庫建設に伴う特別損失の計上もありますが、親会社株主に帰属する四半期純利益は、当初の公表値を達成できる見込みであります。

また、通期の業績予想につきましては、景気動向が未だ不透明であります。当第 2 四半期連結累計期間の推移及び入手可能な情報から、売上については減収、損益については増益となる見込みであります。

2. 個別

当第 2 四半期累計期間の売上高は、ドラム缶等容器販売部門における再生缶の販売数量及び配送数量の減少により減収となる見込みであります。しかしながら、貨物自動車運送事業及び貨物運送取扱事業部門において、燃料価格が低水準で推移した事等により損益は公表値を上回る見込みであります。なお、危険物倉庫建設に伴う特別損失の計上により、四半期純利益は、当初の公表値を下回る見込みであります。

また、通期の業績予想につきましては、景気動向が未だ不透明であります。当第 2 四半期累計期間の推移及び入手可能な情報から、売上については減収、損益については増益となる見込みであります。

以上